

北海道は「美しい！」 が、「広すぎる…」



上川北部医師会
士別市立病院

長 島 仁

明けましておめでとうございます。令和になって初めての新年を皆様どのように過ごされましたか？

私が「昭和」に医師を志し、徳島で学び、「平成」に北海道の豊かな自然に憧れて移り住み、無我夢中で患者の診察、治療を行い、知らない間に「令和」という新しい時代が変わり、自分自身もいよいよ「還暦」を迎えようとしています。

あらためて北海道に来てからの自分を振り返ってみると、1994年に札幌に住んで以来、ほぼ単身赴任生活を送り、その間に二人の娘はとうに成人を過ぎてしまいました。

2012年からは道北の士別市立病院に勤務し、8年間で過ぎようとしています。2016年に病院長、2018年には病院事業管理者に任命され、田舎の地域医療を守らなければならない一方、その重圧が日に日に増してきています。

ふと、思いつき私が事業管理者として、1年間に出張、帰省を含めた移動距離がどのくらいになるものか、ざっと計算してみました。

士別－札幌間 往復 400km×50回＝2万km

士別－東京間 往復 2,000km×20回＝4万km

合計6万km

何！ 確か昔に地球1周約4万kmと習った気がするが…。

その他にも出張で九州、広島、名古屋にも行き、往診業務で市内を回るときに1日に100kmを移動することも度々…。

年間の移動距離、それに要する時間は一体どれくらいなのだろう…。

東京都内で100km走れば大病院がいくつあって、その中に医者が何人いるのだろうと考えてしまいます。

やはり北海道は美しい憧れの土地だが「でっかいどう」で広すぎる！

私の妻が札幌で産婦人科医をしています。一度も私の士別のマンションに来たことが無いのは距離的なことが問題なのではないでしょうか？（笑）

私が院長になってからは、20km離れた（北海道では目と鼻の先）名寄市立総合病院との連携を徐々に深め、慢性期中心の「身の丈」に合った病院に改革を進めており、少しずつその成果も出ています。

新年を迎え、病院改革をさらに進める決意とともに、「還暦」なのだから、札幌に帰る片道200kmの車の運転が辛いのでJRにしようかなという、「強気」と「弱気」が混在している今日この頃です。

本年が会員の皆様にとってより良い年でありますように。

実り



函館市医師会
たんだ泌尿器科

小 野 武 紀

新年あけましておめでとうございます。北海道医師会より「北海道医報『新春随想』」、函館市医師会より「函医だより『子歳随想』」、ダブルで寄稿のご依頼をいただき、今年自分が48歳の年男であり、「ついている」と実感しております。私事ではありますが投稿させていただきます。

一昨年函館に居を構え、家庭菜園をはじめようと思ひ小さな庭をつくりました。初心者1年目の昨年はワイルドストロベリーを植えました。手間暇かけずともすくすくと成長し、初夏から秋にかけ鈴なりとなりました。外仕事をすると、清々しく甘い香りとともに一服の清涼剤のように味わい、収穫のさわりを感じることができました。

小石が多く、さらに水はけも悪く苔類が目立つ庭ですが、「庭でいろいろな野菜を育てて生活してみたい」という気持ちがあり、昨年は雑草取り、庭の土を掘り起こし、土作りをして「畑作り」の基礎をつくりました。今年はトマト、ミニトマト、ナス、キュウリを植える予定です。試行錯誤をしながらも、「実りの収穫」と思い今から春を待ちわび、わくわくしております。

平成31年4月より、故郷である函館の地で、現職の仕事させていただいております。これまでの病院勤務医時と異なり、外来と透析診療が中心となり、患者さん一人一人との距離が近くなり、接する時間が増えました。以前の病院より継続して受診していただく患者さんは、「気軽に相談しやすくなった」「ゆっくりと話ができるようになった」と、変化を「良かった」と捉えてくれています。微力ではありますが「地域に根ざす泌尿器科」を実践したく赴任し、スタッフとともに作り、発展させていきたいとやっておりますが、少しずつでも進んでいけるのではないかと感じております。

医師としての仕事、プライベートの家庭菜園ともに、「実り」のある1年にできるように、努力・前進していきたいと考えております。